

### 7. 最後の日々

Fellow たちの最終発表は、最後の週の火・水・木の3日間にわたって行われた。8人の発表の最後には、fellow の中で紅一点だった Lorna があたった。彼女は、自分のレポートを終えたあとで、「今まで、みんな、勉強の話ばかり報告してきたけれど、私たちは、本当は、ほとんどの時間、もっと別のことをしていたのではないかと、思います。それを最後に少し、……」と言って、彼女と Scripps からのもう1人の fellow, Rainer Holterbach が撮った Woods Hole の美しい色彩々の花のスライドを映して見せてくれた。それは、まさに、僕らの Woods Hole での楽しい思い出を象徴してくれるようなスライドであった。

今年の GFD セミナーは、その翌日の金曜の朝の E.A. Spiegel による The Transition to Nonintegrability と題された emeritus lecture (僕が emeritus の意味を尋ねたら、Spiegel は、誰か死んだ人の記念でする lecture のことだよ、と教えてくれた) で閉じられた。線形常微分方程式における級数展開法の考えを非線形偏微分方程式に拡張する話に始まり、具体例は、Burger 方程式から、粘性項の微分の回数を増やした KdV 方程式、Kuramoto-Sivashinsky 方程式へと進み、最後には非整数回微分にまで至る話を、kibitz に富んだ語り口で聞かしてくれた。この lecture の後、メンバーたちは、揃っ

て近くの bar ヘビールを飲みに出かけ、最後の打ち上げをした。その日の午後から、fellow と staff たちは、1人また1人と、Walsh Cottage を日ごとに去っていく。こうして、一夏の GFD セミナーも過ぎ去っていく。

### 8. おわりに

GFD セミナーには、日本から、多くの方がすでに参加されているが、指導教官である山元龍三郎先生と編集委員の住明正氏の勤めもあって、このセミナーの良い雰囲気や少しもお伝えすることができれば、という気持ちからこの個人的報告を書いてみた。これからも、後に続くべき方々がどんどんこのセミナーに参加されることを願っている。(参考申込は例年、2月末まで。その3カ月前には用紙を請求されることをお勧めする。請求先：Fellowship Committee, Education Office, Wood Hole Oceanographic Institution, Woods Hole, MA 02543, U.S.A.)

なお、最後に、今回、セミナーに参加するに当たっては、ここでいちいち1人1人のお名前を挙げるができないほど多くの方々に、準備の段階でも、滞在中にも、実に様々な形でお世話になりました。ここで、その御一人御一人に感謝の意を表します。

---

## 月例会「長期予報と大気大循環」の講演募集のお知らせ

標記月例会を下記のとおり開催いたしますので奮ってご応募ください。

### 記

日時：1988年9月28日(水) 13:00~17:00

場所：気象庁

テーマ：「中・高緯度対流圏の長周期変動」

申込方法：題目、講演者氏名、所属、と要旨を400字以内にまとめて提出

申込先：〒100 東京都千代田区大手町 1-3-4 気象庁予報部長期予報課 上野達雄

電話 03-212-8341 (内線330)

講演申込締切日：1988年7月15日

---